



**Nouvelle épreuve vidéo
de langues vivantes**

CONCOURS ECRICOME PRÉPA 2020

VERBATIM & RÉSUMÉ

Mentions légales

Les concours organisés par ECRICOME© sont des marques déposées. Tous les sujets, corrigés, résumés et verbatim sont la propriété exclusive d'ECRICOME.

Reproduction interdite en dehors du site internet d'ECRICOME©

Tous droits réservés.

Toutes les vidéos sont sourcées (voir document en ligne) au titre des droits d'auteur. Utilisation à des fins pédagogique, accord du 4 décembre 2009 conclu entre la PROCIREP et le Ministère de l'Éducation Nationale.

Vidéo N°1 : « Longévité des habitants de Shizuoka »

「いきいき長生き！健康寿命日本一」

La vidéo créée par le service communication de la préfecture de Shizuoka en 2012. Cette année-là, l'espérance de vie tout en restant en bonne santé était la plus longue chez les habitants de Shizuoka. La reportere cherche la raison de cette longévité en étant en forme. 1) Il y a des ingrédients variés à Shizuoka. 2) Les habitants de Shizuoka boivent beaucoup de thé. 3) Les habitants sont très actifs dans la communauté. La reportere visite le restaurant-magasin Kurara et fait l'interview à la directrice de cet établissement qui a 77 ans. Elle a ouvert ce restaurant-magasin il y a deux ans. Plusieurs dames y travaillent en proposant le repas à bas prix et des objets faits à la main. L'âge moyen de cette équipe est 67 ans. Le restaurant a fait un grand succès et il est aussi le lieu de détente pour les personnes âgées de ce village. Les dames âgées travaillant dans ce restaurant disent que c'est leur objectif de vie de rester utiles pour la société.

Vidéo N°2. « Nombre de portable conservé au domicile »

「埋蔵形態の価値 1.7兆円 自宅保管を試算」

La société Geo a calculé la valeur totale des téléphones portables qui sont gardés à la maison sans être vendus, et cela s'élève à 8 milliards d'euros. Par rapport au résultat de 2015, il y a une augmentation de 4 millions d'euros environ. Les présentateurs demandent aux invités combien de portables qu'ils gardent à la maison sans utiliser ni vendre. Un des invités dit qu'il en a deux à la maison. Comme l'écran est cassé, il ne peut pas les vendre. Et un autre invité dit qu'il en a dix qui restent au domicile. En raison de son travail, il doit utiliser tout le temps son portable, de ce fait, un portable n'est plus utilisable au bout d'un an. Tous les invités ne veulent pas vendre les anciens portables de peur de la fuite des données personnels ainsi que des secrets professionnels, et aussi pour garder leur souvenir.

Verbatim

Vidéo N°1 : « Longévité des habitants de Shizuoka »

https://www.youtube.com/watch?v=_kwJSj2BDig&t=3s

「いきいき長生き！健康寿命日本一」

ふじのくに総研・研究員、久保ひとみ。ケンミン代表として、日夜県内を駆け回っている。本日の指令。我が県が健康寿命日本一に。元気な高齢者に会い、その元気の源を探ってくれ。「ふじのくに、ケンミンあい」

健康寿命とは介護を受けたり病気で寝たきりになったりせずに過ごせる期間のことを言います。

こちらがその結果。男性が 71.68 歳で全国第 2 位。女性が 75.32 歳で全国第 1 位。総合でみごと日本一に。では、なぜ健康で長生きの高齢者が多いのでしょうか。

静岡県は食材が豊富で食生活が豊かなこと、日頃からお茶をたくさん飲んでいること、特に社会参加が活発な人ほど健康寿命が長いという研究結果も出ております。

そこで久保研究員がやってきたのは、伊豆は松崎町。

さあ、これから元気で働いていらっしゃる高齢者の方に会いに行きますよ。

訪ねたのは松崎の味覚が楽しめる「蔵ら」。

こちら代表の青森さん。

わあ、笑顔が素敵なお母さん。今、失礼ですけど、おいくつなんですか。

77 になったばかりです。

77 になったばかり。

ここはどういったお店になるんですか。

ここはですね、古民家を利用した町おこしのお手伝いみたいな形で、私たち高齢者がね、頑張っているお店です。

「蔵ら」のスタッフの平均年齢は67歳。高齢者の働ける場所をと青森さんが中心となり、2年前にオープン。お昼時はこのにぎわい。松崎を代表する人気店なのです。手作り雑貨も、自慢のひとつ。また「蔵ら」は地域の高齢者の方の憩いの場にもなっているようです。

1週間に何回ぐらいくるんですか。

3回ぐらい来るかな。

4回か5回は来るよ。

お話しするのが楽しい。

高齢者の方にも気軽に食べて欲しいと、お料理のお値段も一

これで500円です。

500円！ワンコインですか！

ワンコインなんです。

なんで、そんなにお安いんですか。

この貝もそうなんですけど、人参もそう、みんな、あのう、おばあちゃんたちが作ってるのを、朝どれで持ってきてくださる。

このお魚は？

これはサンマなんですけど。

もう、身がしまっていて、おいしいですね。

松崎の恵みとお母さんたちのやさしさが詰まっています。

やはり、皆さんのお役に立つこと、まだこの歳でも社会のために役に立つことが、一番生きがいです。

今日は皆さんから、たくさんの元気をもらいました！私も健康長寿目指してがんばります！

がんばれー！

「ふじのくにケンミンあい」は静岡県広報課がお送りしました。

Vidéo N°2. « Nombre de portable conservé au domicile »

<https://www.youtube.com/watch?v=OJJZkAnl2fU>

「埋蔵形態携帯の価値 1.7兆円 自宅保管を試算」

ゲームやDVDのレンタル販売などを手がけるゲオホールディングスの子会社ゲオは、使われずに自宅で保管されている携帯電話「埋蔵携帯」の価値が、総額1兆7013億円に上るとの試算結果をまとめました。

携帯電話の一人当たりの保有台数から平均契約台数を差し引いた数字に携帯電話の保有者数をかけたものを「埋蔵携帯台数」と定義。これに中古携帯の平均買取価格をかけることで算出し、2015年の調査時は1兆6489億円で、およそ500億円増加していました。

さあ、こちらのニュースは男性62パーセント、女性38パーセントで、比較的幅広い年代で関心が高いですね。まあ、特に、あのう、働くよね。携帯の更新率も、上がるのでは。あります、皆さん、眠っているスマホや携帯。

僕、2台ぐらい、 아이폰が眠っています。

아이폰が2台、眠っている。

やはり、ガラスが割れて、出せないんですよね。

僕、10台はあるなあ。あのう、仕事柄、酷使してるんで、1年もたないんです。

ああ、そうですか。

そんで、もう、そのまま、置いてあるから。

置いてあるから。

で、しかも、ものすごい、あのう、守秘義務があるんで、中のもん、怖いでしょう。

怖いねえ。

その、返すというてるけど、それがちゃんと確立しないと。中のデータ、壊すようなね。よう、そのう、売らないですね。

一応ね、 아이폰とかだと、設定で、あのう、入れ替えができるような。

て、言うてるけど、何か、また使ったら復元できたりするんちゃうかな、とか。

て、思ってしまうますよね。

思うでしょう。

なぎさわさんどうですか。

うちにも2、3台は 아이폰が、はい、ありますよね。どうしても、なんか、今のを下取りに出すと、機種変更が安くなったりとか、するじゃないですか。でも、どうしても、こう、なんか、思い出がやっぱり残ってるので、とっておきたいというのがあって。そのままにしていますよ。はい、思い出が。常に一緒にいたい。

はい、皆さんにもちょっと聞いてみたいと思います。今日の意識調査です。テーマはこちら。「あなたは使っていないケータイとスマホが家に何台ありますか。」

三好さんも思い出を大事にしていくタイプなんですか。

はい。どちらかというと、ちょっとクリーニング機能というのを、信用できていなくて、家に3、4台はありますか。

宮瀬さんの携帯の価値が、これ、あなたの場合は7000円ですと言われたら、どうでしょうかね。リサイクルに出したら、7000円です。

絶対、7000円では売りません。

いくらだったら。

いくらだったら。どれくらいですかね。

10万ぐらい。

どんだけのを言っているんですか。

ということで、皆さんお待ちしております。

さあ、皆さん、使っていないケータイとスマホが家に何台ありますか。
どれぐらいでしょうか。せいの、どん！

2台が一番多いですね。ついで、5台以上という方も多いです。皆さんお困りでしたら、ぜひ、あのう、各携帯会社に持っていくとね、リサイクルにも回りますし。下取りにも出せますからね。ぜひ皆さん活用してみてください。